

# 熊野古道・大辺路

## 2010.5.1~4

5月1日		
平針	6:53	↓ 地下鉄鶴舞線
鶴舞	7:10	
	7:20	↓ JR中央線
名古屋	7:27	
	7:37	↓ JR のぞみ1号
京都	8:11	
	8:36	↓ JR オーシャンアロー3号
紀伊田辺	11:06	昼食
	11:46	↓ 明光バス
簡易保養センター前	11:58	天神崎～田辺を散策
アルティエホテル・紀伊田辺		泊

5月2日		
ホテル	7:40	
道分石	7:48	↓ 2日目① 14.9km
富田橋	13:51	
	14:09	↓ 明光バス
郵便橋	14:16	↓ 2日目② 2.6km
朝来駅	15:02	
	15:41	↓ 明光バス
湊バス停	15:55	
アルティエホテル・紀伊田辺		泊

5月3日		
ホテル	8:30	
田辺駅前バス停	8:55	↓ 明光バス
郵便橋	9:19	↓ 3日目 16.1km
安居の渡し場	15:06	↓ 民宿の送迎車
森のお宿	15:25	泊

5月4日		
森のお宿	7:15	↓ 民宿の送迎車
安居の渡し場(北)	7:28	
	7:55	↓ 渡し船
安居の渡し場(南)	7:59	
	8:05	↓ 4日目 9.5km
JR周参見駅	11:45	海辺でランチ
	12:50	↓ JRスーパーくろしお7号
JR紀伊勝浦駅	13:59	
	14:24	↓ JRワイドビュー南紀84号
名古屋	18:23	

1日目は天神崎ハイキングでウォーミングアップ



駅前のレストランもみの木で昼食:あがら丼



バスで簡保センター前まで行き、元島、天神崎を回る。



商店街の街路燈



夜は「銀ちろ」へ行き、魚中心のコース料理。早々に就寝。

5:30 朝陽 6:55 朝食



②7:48 大辺路の起点：道分け石



③7:52 蟻通神社



⑤8:00 闘鶏神社



①7:45 湊交差点（街路工事が終わり弁慶登場）



**北新町 道標** 高さ二・八メートル 三〇センチ

（北側）右きみある寺  
（西側）左りくまの道すたの

（東側）安政四年 丁巳秋再建之 石工 見かけや新道  
（南側）近世の申辺路と大辺路の分岐点で、西から進んで来た場合は、「左」くまの道に、戻って申辺路（万呂・三軒方面）へ、小さい字で「すくハ大辺路」とあるのは、直進すれば大辺路（藤山・新庄方面）へ、傾くことを示しています。北からやってくる「右きみある寺」に従い、和歌山方面へ進むこととなります。

田辺市観光協会

④7:58 若宮神社



源平の戦いは一の谷の合戦から海軍上陸に移り、当時源氏に討たれた熊野水軍の動物やその勝敗に大々影響を及ぼすことになり、熊野水軍の統率者である熊野別当増隆に討つる源平双方の物々、けはれは激しさをあらわした。

義経の命を受けた弁慶は口急いで田辺に帰り、又増隆の設けた成功増隆口の白鶴七羽は、鶴七羽を調べて神意を確かめ、増隆指揮のしるしを先頭に若王子の御正体（二千人、二百余騎）を先頭に増隆の陣に向かい、出陣、源氏統率者大々別当に討たれた。

時元文治元年（一一五五年）三月のことであった。

昭和六十二年五月三日  
武蔵野青果園水産部百年実行委員会



⑥9:07 大湯神社



⑦9:38 新庄峠：峠の高地蔵



⑧9:55 大師堂



⑨ 10:01 弘法井戸



⑩10:23 櫛原神社



⑩10:06 糠塚



①10:37 JR朝来駅



②11:06 駅近くのACCOOP APiPで昼食



③11:38 朝来の道標・地蔵



④11:54 山王橋（潜水橋）



⑤12:00 庚申塚



⑥12:08 みちびき地蔵



⑦12:10 馬頭観音（⑥から戻って確認）⑧12:44 地蔵



⑨12:50 馬頭観音



⑩12:53 平間神社



⑪13:23 日神社（バスまで時間があるので、ゆっくり休憩）



⑫14:04 明光バスで郵便橋へ



⑬14:29 民家のシャッター



⑭14:32 みちびき地蔵



⑮14:38 波切不動尊・若一王子権現碑



⑯ 朝来バス停前のケーキ屋さんでロールケーキを買う



15:41 通過予定の明光バスでホテル近くに戻る



夜は味小路の居酒屋「徳乃」で新鮮な海の幸を堪能



6:55 朝食



ポストの上に「郵便橋のいわれ」像



29:35 覚王寺



49:58 地蔵



610:01 魚籃観音と大鰻生息地の碑



①9:19 田辺駅 8:55 の明光バスで郵便橋へ到着



郵便橋の欄干



39:48 庚申堂



59:59 地蔵



710:25 四辻地蔵



810:47 石経地蔵 (不安だったので一度通り過ぎ、やっぱり引き返し、土地の人に確認して開扉)



910:59 草堂寺



草堂寺駐車場の藤棚で昼食



1011:38 一里松跡



11:33 出発



世界遺産  
World Heritage

一里松跡

一里(約4.5km)を示す標があったといわれる場所であるが、往時を能く示すものは残されていない。ただ土地の人々は、いまだにこの跡を一里松と呼び認めている。

この道には、1基の石碑が建立されており、1基は正徳4(1714)年頃の製神で割断にキリクとともに南無阿彌陀仏と彫られている。

また、寛政7(1795)年刊の『伊勢』に、西尾藩門下文庫(1823)年2月吉日に建立した「伊勢大乗寺御日本書(開扉)」と、比較的新しいものであるが、「御足跡 高潮御所御書」と記した石碑がある。最後の1つは「吉田藩古」が文庫(1823)年に建立した「日本閣下人供養所」である。

これは近世の大田原において在地の人々が藩人の供養などを行っていた証となり、貴重な資料である。

高潮山

①12:03 七曲登り口



②12:23 白浜方面（空港滑走路が見える）



③12:49 富田坂茶屋跡



**富田坂 茶屋跡**

この茶屋については大辺路を歩いた文人墨客が残した紀行文などにその存在を確認することができる。代表的なものとしては文化元(184)年に三寶院門跡に発行した横井金行が「金谷上人脚一代記」に茶屋の増というところに休憩所を設けていることを記している。常設の茶屋としては幕末頃から大正8年頃まで営業していたようで、明治25年には陸奥宗光が逗留をした際に休憩したらしい。

大辺路開拓前の難路である七曲りを越えた旅人にとって、この茶屋が何よりの癒しの場となったであろう。また、当時茶屋で使われていたであろう割れた石臼が遺され、往時を偲ぶよすがとなっている。

和歌山県

④13:11 安居辻松峠



**安居辻松峠**

この地は旧白浜町と旧日置川町との境にあたり、その名のとおり昔は道の両側に塚が築かれ、そこに松が植えられていたらしい。ここにあった松の木は昭和18年の山火事で焼けてしまい、現在では道の端に横たわっている。また、山崖には舟形光背の地蔵立像が祀られていて、その台石部には「安居村」と彫られている。

ここは和歌山より23里(約92km)の地点となっている。

和歌山県

⑤14:12 梵字塔



**梵字塔**

現在「茶のみ峠道沿い」に建立されているが、屋根上にもいくつもの石碑が祀られている。

梵字は古代インドの仏教とともに日本に導入されたサンスクリット(梵語)の文字で、そのうち仏を表すものが供養塔や卒塔婆などにあらわれる。この梵字塔は、梵字を並べて上から順に、大日・善現・勢至・観音・彌勒などの十仏を表現している。もともとは屋根上にあったものが、いくつもの修繕を経て、現在ここに建立されているらしい。

和歌山県

⑥14:22 庚申塔



**庚申塔**

庚申は十干十二支の「かのえさる」で、六十日ごとに回ってくる。この日は夜も眠らず過ごし、健康長寿を願うという習俗があった。これは道徳の教訓に基づくもので、その人が生きているときの神慮の行いによって寿命が長くとせられており、人の体の中には「三尸の虫」がいて、庚申の日になると集まっているうちに体を抜け出して、悪行を上帝に告げ口すると思われていたからである。

この場所には、石製の庚申立像と、「庚申」と彫り込まれた文字塔が並んでいる。また現在は傾斜しているが、石製の小祠があり、ここには庚申立像やその周囲にある地蔵像などが安置されていた可能性がある。ここは守山今三ヶ川の距離標の入口にあたるので、庚申塔や地蔵像が建立され、かつ集められたりしたのだろう。

和歌山県



⑦14:47 三ヶ川バス停



⑧14:53 徳本上人号碑



⑨14:55 三須和神社



⑩15:02 安居の集落内



⑪15:06 安居の渡し場（北）に到着



民宿「森のお宿」(車で送迎、片道約15分)



6:30 朝食



民宿周辺



①7:45 安居の渡し場（北）



8:05 出発



④8:30 桂松跡



②7:59 安居の渡し場（南）



③8:06 ロヶ谷からの迂回路と合流



**桂松跡**

江戸時代において記行文中にその名が散見され、古くから知られていたようである。元禄2(1689)年の『紀南郷等記』に「カツラ松の版」、寛政年間『熊野通記』には「跡に桂松有り」としている。また、『熊野街道沿村取調記』では「かつら松、一里塚松の内」と記され、桂松が一里塚の松とされていたことがわかる。ちなみに和歌山から25里(約100km)の距離である。

桂松の名は、その上部がカツラを渡ったようなかたちをしていたからだと伝えられている。

和歌山県



⑤8:37 仏坂茶屋跡



⑦9:43 不動尊



⑧10:03 仏坂上り口



⑨10:05 地主神社



⑩10:34 大師堂



⑥9:04 石畳



**不動尊**

いつのころからここにまつられている不動尊である。石像には「願主阿彌見通 明治三十八年(一九〇五)六月吉日」と刻まれているが、台座石には「文久二年(一八六二)三月」とあり、不動尊が風雨によって摩滅しては取り変えられ、いまは何代目かであろうと思わせる。もとは露天にさらされていたが、戦後地元入谷の人たちによって祠(ほこら)がつくられた。

不動尊は修験道では重視されていたのであり、大辺路が山伏にとって山嶺のある街道であったことを物語るものであろうか。

和歌山県

**仏坂上り口**

仏坂は旧大辺路街道の一部で周参見・安居間の峠道です。昔は安宅坂を越えていましたが、江戸時代頃からここを通るようになりました。仏坂の終り、日置川によって遮断されていますが、渡し舟が運航されています。

和歌山県

**地主神社**

「こゝは(コノシ)地主さん」と呼ばれる入谷地区の神社として古くから奉られていたが、社殿がないのが特色である。背後の巨岩を含めた森全体が神体とされていたようで、それはいまも祭壇の中央に立つ神木のサカキによって象徴されている。

熊野地方には、神は大樹や巨岩に宿すとする素朴な自然信仰から、社殿を設けずに祭るところが多くなかった。

各地にあった矢倉神社などがそうで、この地主神社もそれと変わりがない。しかし、このようにいまも残っているのは全く珍しい。

**⑪10:43 徳本塔(その裏にも像)**

①11:07 周参見王子神社

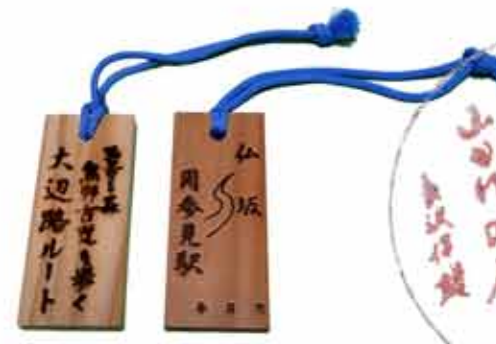


②11:26 周参見代官所跡



周参見代官所、奉行所々在池路家内江戸時代の周参見は、口野野の中心地として非常に栄えました。それは、この場所が口野野の行政、出立、経済を支配する。周参見代官所が設けられていたからです。口野野は紀伊半島の南端に、代官は和歌山から派遣されており、現在のすさみ町を中心として、日置川、中辺郡の一部、大田村の一部、白浜町の一部、串本町、古座町、古座川町、新宮町の一部が管轄されていました。これらの地区から、紀伊半島に上陸される年貢米は、すべてここに集められました。現在の周参見小学校の敷地の付近は、そのための米倉の跡です。代官所跡は、この敷地内にあり、この敷地に向かって上側の「周本」は、代官所の跡の周本として、明治四十三年刊行の「周参見村誌」に記述されています。平成十年 すすみ町教育委員会

③11:28 すさみ町役場 (宿直のお兄さんに木札をもらう)



④11:37 萬福寺



⑤11:45 JR周参見駅



⑥11:51 枯木灘の海岸



海を眺めながらランチ



12:50 スーパーくろしおで紀伊勝浦へ



紀伊勝浦 14:24 のワイドビューで帰名



番外編：初日の天神崎



今回、CANONのデジカメの調子が変わだと思っていたら、四日目にはついに撮影不能。写真を見ると少しずつおかしくなっている。もうCANONは買わないと決心した。それはそれとして、大辺路のスタートは天気心配も全くなく、快適美味。